

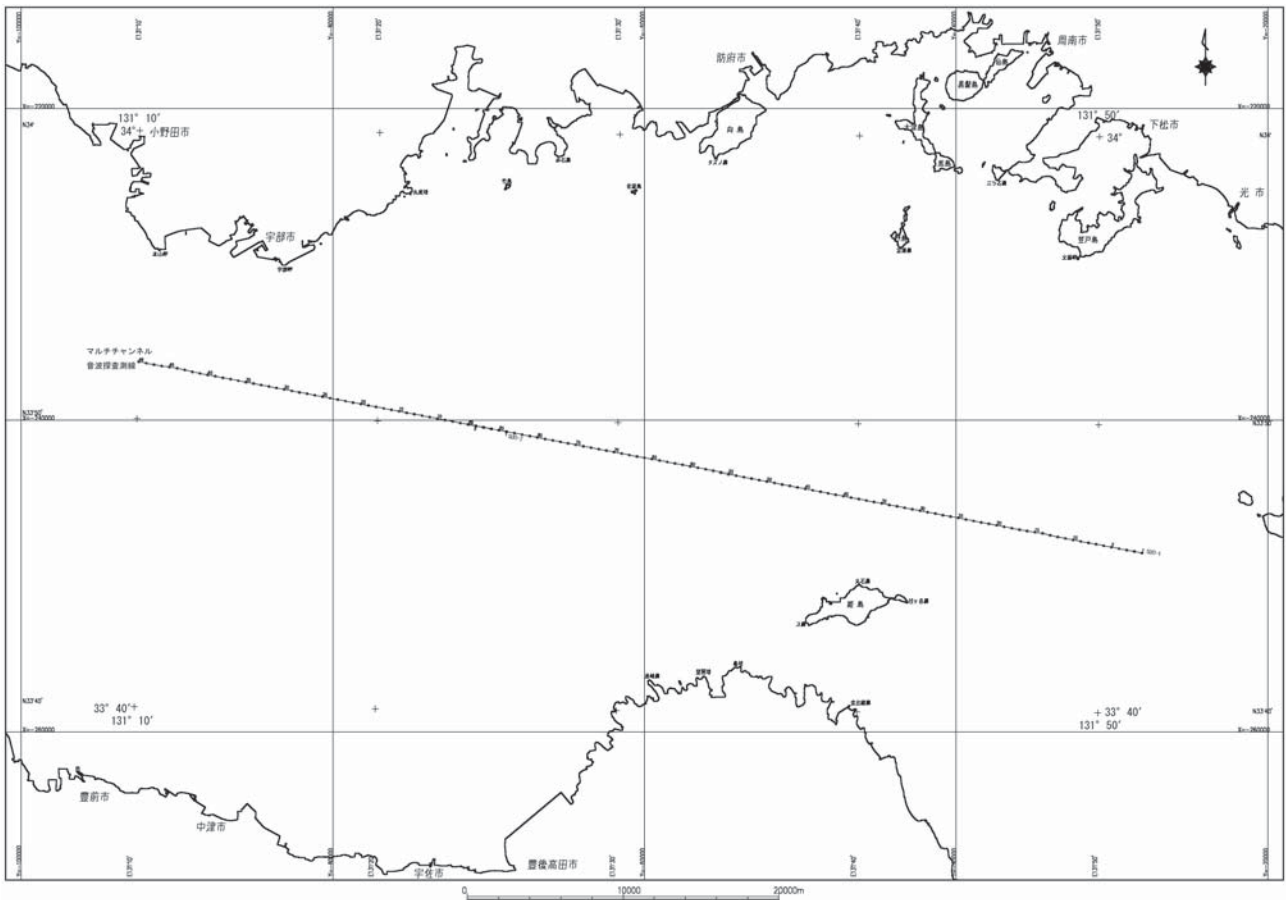
## 9-4 周防灘東部におけるマルチチャンネル音波探査 Multi channel seismic survey in the eastern part of Suo Nada

海上保安庁海洋情報部

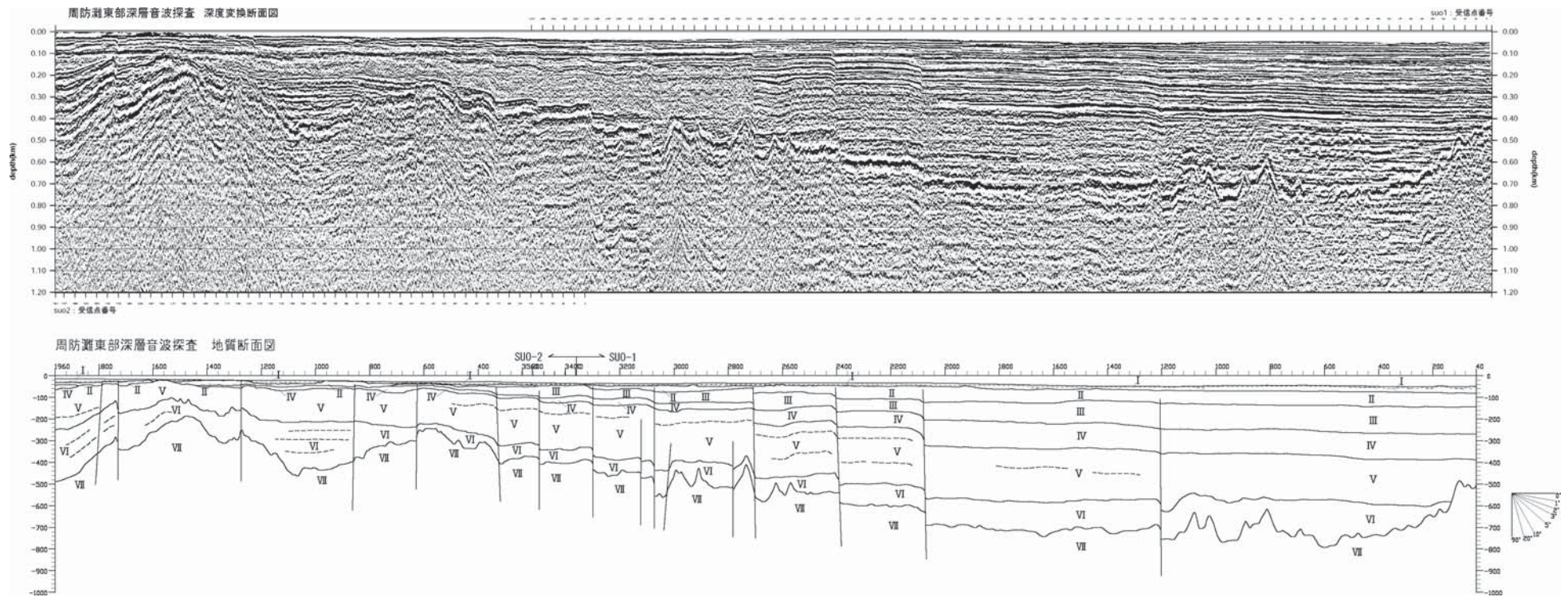
Hydrographic and Oceanographic Department, Japan Coast Guard

調査は平成15年9月に実施した。調査には40 cu.in. エアガンとチャンネル数24, チャンネル間隔12.5 mのハイドロストリーマーケーブルを使用し, 発音間隔は12.5 mとした。また, チャープソナーを併用した。調査測線は宇部南方から下松南方で, 測線方向は西北西-東南東とした。測線の東端約1 kmを除き平成10年度, 11年度沿岸海域活断層調査「宇部南部」, 「周防灘東部」に含まれる。水深は全体的に50 m以浅で, 西に向かって浅くなる。音波探査測線東端では水深約50 m, 西端では約15 mである。

調査海域の地層は記録パターンや反射面の傾斜の違いから, 堆積形態の違いや整合・不整合を推定して地層区分を行い, 上位よりI層~VII層に区分した。I層はマルチチャンネル音波探査では分解能の点から判読しにくいいため, 同時に実施したチャープソナーの記録によった。チャープソナーの記録ではI層はI-a層とI-b層に区分される。今回の調査では以前の調査「宇部南部」, 「周防灘東部」で判明していた15条の断層のほかに「周防灘東部」の区域で1条の断層(F.42)の存在が判明した。深度変換断面の解釈図でUsと付されているのは「宇部南部」, Seと付されているのは「周防灘東部」の調査海域の断層または撓曲を示している。16条の断層のうちUsF.13, UsF.14及びSeF.15はI-a層に変位が認められる。SeF.15はI-a層下部での変位は1 m程度であるが, VI層, VII層では大きく屈曲し落差はVII層で140 mに達している。UsF.13はI-a層内に変形した反射面が確認でき, I-b層上面での変位は約1 mである。UsF.14はI-a層内の反射面が変位していることが確認でき, I-b層上面での変位は約1 mである。



第1図 航跡図  
Fig.1 Track line.



第2図 音波探査記録と地質断面図  
 Fig.2 Seismic profile and geological section in the eastern part off Suo Nada.